

復旧・復興の状況報告(全4回)



- ・能登半島地震からまもなく2年(1年10カ月)、奥能登豪雨から1年2カ月経過
- ・10/29の会見から4回にわたり、**これまでの復旧・復興の状況について、4つのテーマごとに報告**
- ・今回(11/20(木))の会見では、**「住まい」の復旧・復興の状況を報告**

報告事項

それぞれのテーマについて、「被災直後の状況」、「現状」、「今後の見込み」を報告

	会見日	テーマ
①	10/29(水)	道路・河川
②	11/ 7(金)	港湾・漁港
③	11/14(金)	農地
④	11/20(木)	住まい

今回報告

住家被害の状況（地震・豪雨）



- ・令和6年能登半島地震では**116,452棟**が被災し、奥能登豪雨では**1,901棟**が被災
- ・このうち、**全壊・半壊は25,631棟**となった

	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	計
令和6年 能登半島地震	6,167棟	18,724棟	91,550棟	6棟	5棟	116,452棟
令和6年 奥能登豪雨	82棟	658棟	159棟	74棟	928棟	1,901棟

注）令和6年能登半島地震：R7.11.10(14時)時点、令和6年奥能登豪雨：R7.9.19(14時)時点



【地震による被害の状況】



【豪雨による被害の状況】



恒久的な住まいへの移行

- ・発災直後の初動期は多くの方が避難所で生活したが、**今年4月に全避難所が解消**
- ・現在も多くの方が応急仮設住宅に入居していることから、自宅の再建や民間賃貸住宅、復興公営住宅への入居など、**被災者の意向に沿った「恒久的な住まい」の確保に向け支援**

初動期

避難所

1次避難所
1.5次避難所
2次避難所
広域避難所



応急的な住まい

応急仮設住宅

<みなし仮設>



<建設型仮設>



恒久的な住まい

自宅再建
(購入・修理)



民間賃貸住宅

復興公営住宅



※R7.4.1 地震による避難所解消、R7.4.13 豪雨による避難所解消

避難者数

R6.1.4 時点
34,173 人

1次避難者、
広域避難者含む

R7.5.1 時点

0人

1次避難所	0人
1.5次避難所	0人
2次避難所	0人
広域避難所	0人



入居者数

R6.2.1 時点

475 人

公営住宅 448人
みなし仮設 27人
建設型仮設 0人

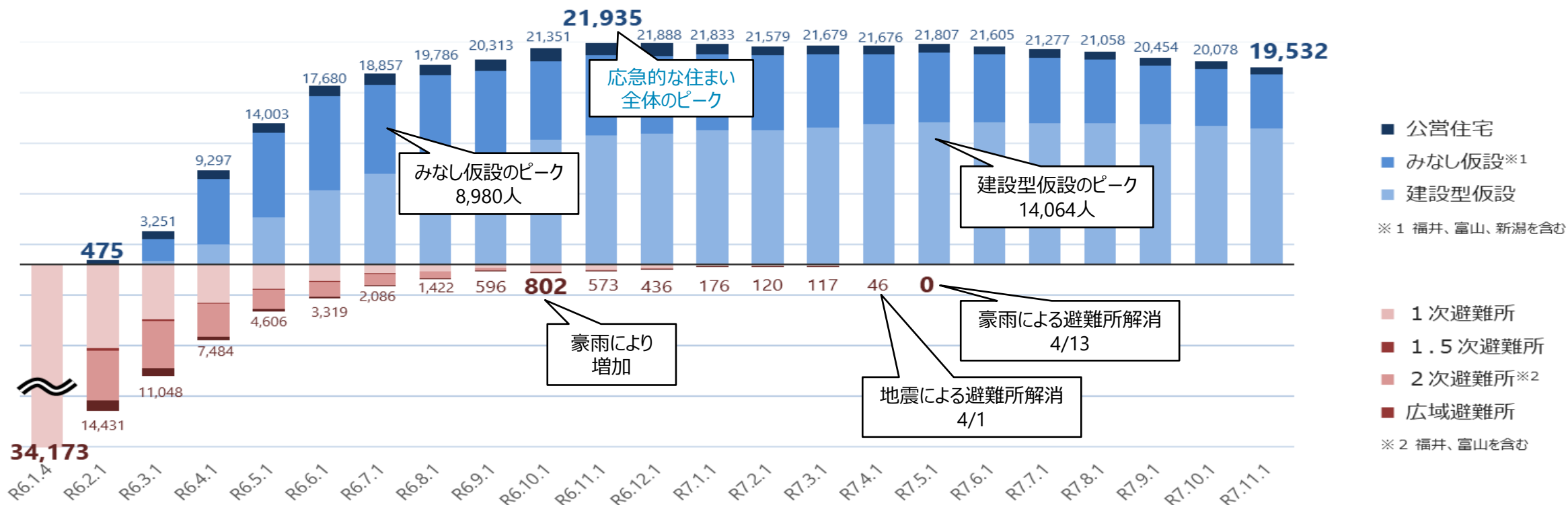
R7.11.1 時点

19,532 人

公営住宅	746人
みなし仮設	5,312人
建設型仮設	13,474人



生活再建支援課 076(225)1982



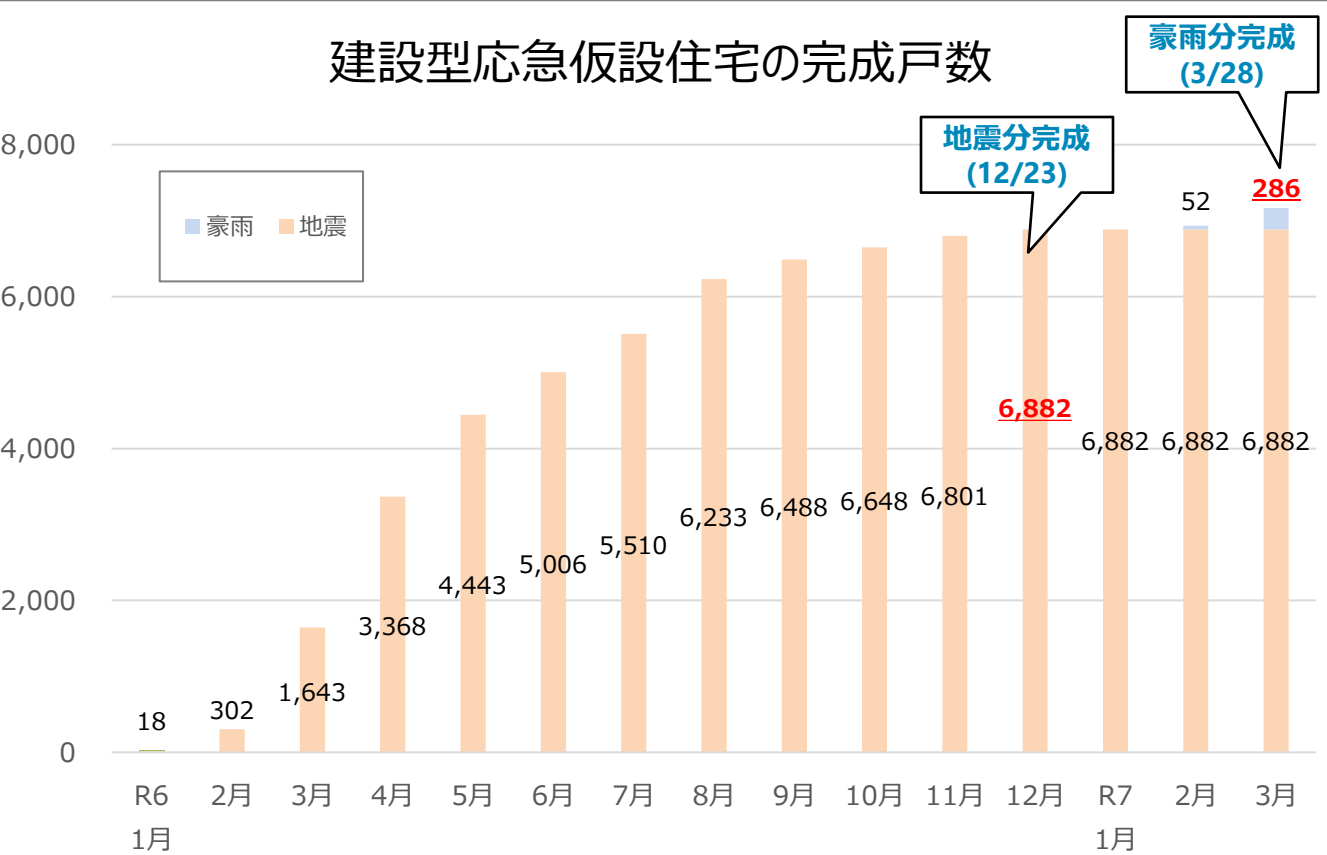
応急的な住まいの確保（建設型応急仮設住宅）



- ・応急的な住まいとして、**建設型応急仮設住宅7,168戸を整備**（地震6,882戸、豪雨286戸）
- ・市町のニーズを踏まえ、迅速かつ大量に供給可能な従来型の**プレハブ住宅に加え**、地域コミュニティを重視し、**長期間の利用を想定した木造住宅も建設**

完成戸数の推移

建設型応急仮設住宅の完成戸数



建設タイプ

建築住宅課 076(225)1775

構造	プレハブ	木造	
		長屋（まちづくり型）	戸建風（ふるさと回帰型）
概要	迅速かつ大量に供給し、避難所生活を早期解消（入居期間終了後は撤去）	入居期間終了後、市町有住宅に転用することで、恒久的な住まいとすることが可能	
入居期間	原則2年間（状況により延長）	原則2年間（2年後 市町有住宅へ転用等）	
場所	市町有地、学校グラウンドなど	従前のお住まいの近く	
外観			
戸数	5,565戸 （地震5,279戸、豪雨286戸）	1,570戸 （地震1,570戸）	33戸 （地震33戸）

応急的な住まいの確保（応急仮設住宅の入居期間延長）

- ・応急仮設住宅の**入居期間は原則2年以内で、入居期限がR8.1月以降に順次到来**
→ <入居期間> 建設型仮設:**完成から2年以内**、みなし仮設:**入居から2年以内**
- ・やむを得ない理由により応急仮設住宅の入居期間内に退去できない場合は、1年の入居期間の延長が可能であり、**現在、1回目の延長手続き(2年→3年)を実施中**（R7.6.30 国との協議が整う）
- ・**入居期間の2回目の延長(3年→4年)を検討**するにあたり、現在も応急仮設住宅に入居している被災者の実態を把握するため、「**住まいの再建意向調査**」を**本日から実施**

再建方法別 1回目(2年→3年)の入居期間の延長要件

自宅再建 (新築・購入・修理)	<ul style="list-style-type: none">● 建設業者の確保が困難で、工事未着手● 工事が長期間に及ぶ● 公共事業などの関係から再建を進められない（例：液状化対策事業など）● 解体工事が終わらない など
民間賃貸住宅	<ul style="list-style-type: none">● 被災時に居住していた市町（宝達志水町以北に限る）の賃貸住宅へ入居したいが物件が見つからない など
公営住宅	<ul style="list-style-type: none">● 復興公営住宅に入居したいが、供与期間内に建設されない など
その他	<ul style="list-style-type: none">● 避難指示、集団移転などの方針が決まっていない など

※入居期限が近い世帯から順次、延長申出書などを送付し、入居期限の3カ月前までに延長の可否を通知

応急的な住まいの確保（自宅の応急修理制度）



- ・災害救助法に基づき、令和6年能登半島地震・奥能登豪雨により、**準半壊以上の被害を受けた住宅**の屋根や壁・窓、台所・トイレなど、**日常生活に必要不可欠な部分の修理を支援**
→ <応急修理の限度額> 全壊・半壊：【地震】706,000円以内、【豪雨】717,000円以内
準半壊：【地震】343,000円以内、【豪雨】348,000円以内
- ・工事業者が見つかりにくいなどの課題を踏まえ、**修理の完了期限を当面設定しないなど柔軟な運用を実施**
- ・これに加え、**県独自に居住市町以外の工事業者に対する掛かり増し経費の補助を実施**
→ <掛かり増し経費> 移動に要する燃料費・宿泊費・人件費

応急修理制度の運用の見直し

- ・完了期限 R7.12.31(水) ⇒ 当面、設定しない
- ・申請期限 R8.9.30(水)
- ・申請書類の簡素化（見積書、罹災証明書(写し)の添付を省略可等）
- ・未申請者に対し、郵送により、制度の再周知と申請意向の確認を実施

掛かり増し経費の補助

- ・対象地域 能登6市町（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町、七尾市、志賀町）
- ・補助対象者 石川県木造住宅協会・石川県建設業協会等の会員で、
応急修理を行うお住まいの市町以外の工事業者
- ・補助件数 **143件の修理に対して補助**（10/31現在）

恒久的な住まいの再建のための支援一覧

凡例	
住まい・生活再建	
入居・転居費用助成	
その他	



自宅再建希望世帯

民間賃貸住宅希望世帯

公営住宅希望世帯

能登創生住まい支援金(能登12市町)

新築・購入：**最大200万円** 修繕：**最大100万円**

R7.6
創設

自宅再建利子助成

(県内全域)

最大300万円

新規住宅ローンの
利子負担の一部を助成

併給不可

R6.3国予備費で
特例的に措置

臨時特例給付金

(能登6市町)

家財等支援

最大100万円

(家財50万円 + 自動車50万円)

住宅再建

最大200万円

(賃借は最大100万円)

被災者生活再建支援金

最大300万円(基礎支援金最大100万円 + 加算支援金最大200万円)

仮設住宅等からの転居費用助成 **一律10万円**(みなし仮設・公営住宅から建設型仮設への転居も対象)

引越し時の負担軽減

二重ローンの負担軽減

最大50万円

既存債務の利子負担の一部を助成

入居費用助成

契約初期費用
(敷金・礼金等)

一律20万円

入居費用 助成

初期設備費用
(照明・コンロ・給湯器等)

一律10万円

被災宅地の復旧支援 **最大766万円**

R7.6拡充 同一市町内で新たに土地を購入して修復するケースも支援(能登12市町)

民間賃貸の建設支援(奥能登2市2町)

県・市町合わせ**最大300万円/1戸**

(1棟あたり最大3,000万円)

R7.6創設

建設した者に対し支援

恒久的な住まいの確保（自宅再建に向けた支援）



- ・「いしかわ型復興住宅モデルプラン集」「住まいの再建支援ハンドブック」を作成し、仮設・公営住宅の入居者約1万世帯に配布
- ・モデルプラン提案事業者に直接相談できる「住まいの再建相談会」を開催（8～9月に7回開催）
- ・生活再建に向けた伴走支援を行う「生活再建支援アドバイザー」を12名配置し、「いしかわ被災者支援センター」で幅広い相談に対応
- ・これらの取り組みの結果、これまでに154件のいしかわ型復興住宅が成約（10/31現在）

いしかわ型復興住宅モデルプラン集

- ・55の住宅プランを掲載
（単身・夫婦向け28プラン、ファミリー向け27プラン）
- ・プランごとの標準工期や概算工事費も掲載



単身・夫婦向け



ファミリー向け

住まいの再建支援ハンドブック

再建方法や各種支援制度、
相談窓口を分かりやすく掲載



いしかわ被災者支援センター

金沢市駅西本町に6/30開設



建築住宅課	076(225)1775
生活再建支援課	076(225)1962

恒久的な住まいの確保（モデル住宅整備）



- ・被災者や事業者団体から「実際に見て触れて」確認できる、**モデル住宅の整備を求める声**
- ・モデル住宅の整備に対する国の補助事業に、**県・七尾市・輪島市・事業者団体で構成する協議会が応募し、本日採択**
- ・市が無償提供する用地に、**いしかわ型復興住宅モデルプランの提案事業者などがモデル住宅 6 戸を整備し、来年のGWまでの完成を目指す**

いしかわ型復興モデル住宅整備協議会の設立

- ・県は、モデル住宅の整備を希望する事業者と市町のマッチングを実施し、協議会設立を支援（10月23日設立）

【協議会】事 業 者：石川県木造住宅協会(事務局)、石川県工務店協会
地方公共団体：県、七尾市、輪島市

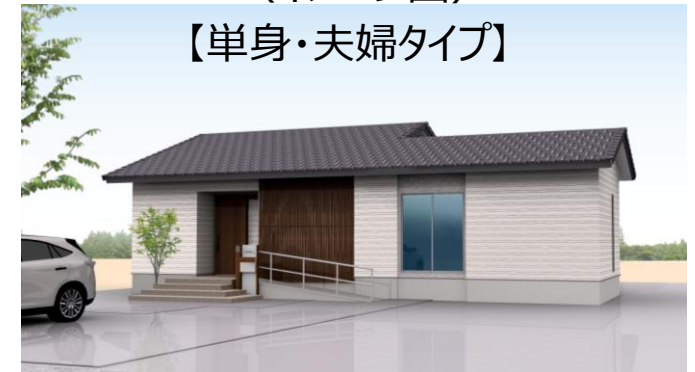
モデル住宅の整備概要

整備地	七尾市 2戸（万行地区2戸） 輪島市 4戸（河井町地区2戸、門前地区2戸）
整備モデル	「单身・夫婦向け」および「ファミリー世帯向け」のモデル住宅を各地区で整備

- ・今後、県・市・事業者が連携した住宅相談会を開催し、住宅再建を支援

（イメージ図）

【单身・夫婦タイプ】



【ファミリータイプ】



恒久的な住まいの確保（復興公営住宅）



- ・9市町が現在整備予定の**2,986戸の復興公営住宅**について、**全て用地確保の目処が立った**
- ・**七尾市、羽咋市、穴水町**では、先行する地区において既に工事に着手しており、**中能登町では年度内に工事着手予定**
- ・**七尾市ではR8.6月頃に、羽咋市、穴水町ではR8.9月頃に完成予定**
- ・市町からの要請を受け、**国に財政支援の拡充を要望したところ、**
 - ✓ **用地取得を伴う場合、市町が家賃を低廉化するための補助期間を10年から20年に延長**
 - ✓ **農地などを宅地として造成する場合の敷地整備費を補助対象に追加**
- ・**建築工事費に係る補助限度額の引き上げについて国に要望中**
- ・引き続き国と連携し、整備が着実に進められるよう、市町を支援

【整備イメージ：七尾市小丸山地区】



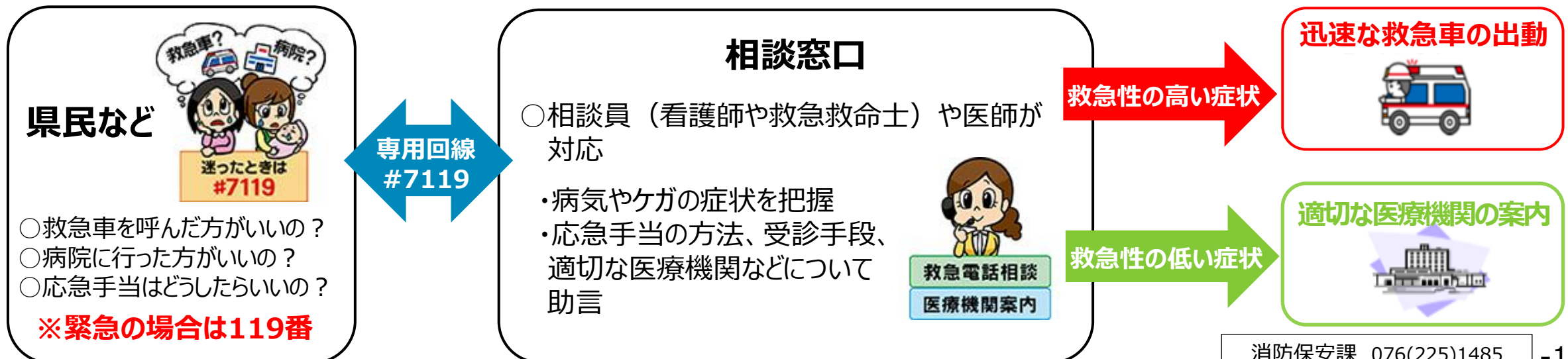
復興公営住宅の整備進捗状況(計2,986戸)

市町	輪島市	珠洲市	能登町	穴水町	七尾市	志賀町	中能登町	羽咋市	内灘町
必要戸数 (着手戸数)	975戸	700戸	260戸	249戸 (50戸)	388戸 (14戸)	184戸	20戸	70戸 (70戸)	140戸
着手時期 完成時期	R8春 着手予定	R8春 着手予定	R8夏 着手予定	R7.8着手済 R8.9完成予定	R7.10着手済 R8.6完成予定	R8夏 着手予定	R7年度内 着手予定	R7.11着手済 R8.9完成予定	R8夏 着手予定

・その他、木造応急仮設住宅の恒久利用について検討中

- 近年、高齢化の進展などを背景に、**救急出動件数や不搬送件数が急増**
 - 救急出動件数は直近10年で約1.4倍（H27:41,176件→R6:58,424件）、直近2年の増加率は全国1位（R4→R5、R5→R6）
 - 不搬送(切り傷や発熱など軽症で搬送辞退など)の件数も、直近10年で約2.5倍に増加（H27:2,499件→R6:6,113件）
- **迅速な救急搬送体制の維持と医療の質の確保**には、**消防・医療機関の負担軽減**を図ることが喫緊の課題
- 急病やケガの際、**救急車を呼ぶべきか判断に迷った場合**、電話で相談できる**専用ダイヤル「#7119」**を、県が来年2月1日に開設予定

「#7119」イメージ



相談窓口の体制

受付時間： **24時間365日**

相談体制： **相談員（看護師または救急救命士）** 2名以上
医師（救急科専門医） 1名以上

※緊急度が高い相談は、最寄りの119番へ転送

その他： **外国人（8か国語対応）**
→英語、ベトナム語、中国語、インドネシア語、タガログ語、ポルトガル語、
ミャンマー語、韓国語

聴覚障害のある方（FAX・メールなどで対応）
からの相談にも対応

今後のスケジュール

- ・**12月上旬にも運営事業者を決定予定**
- ・**来年2月1日の開設**に向け、市町・消防本部と連携し、各広報媒体を活用し**県民へ周知**



のと里山空港300万人達成記念式典

- ・**のと里山空港の搭乗者が300万人を達成**（10月27日）し、これを**記念する式典を開催**
→ 地元市町・関係団体などを招待
- ・県、地元市町、関係団体が一体となり、のと里山空港の活性化や復興への機運を図る
- ・同日、日本航空学園の航空祭もあり、一般観覧もできるので、ぜひご来場ください

空港企画課 076(225)1336

主 催 のと里山空港利用促進協議会(県)、のと里山空港利用促進同盟会(市町)

日 時 12月7日(日) 14時～15時30分

会 場 学校法人日本航空学園能登空港キャンパス体育館

内 容 ■ 記念映像

のと里山空港 300万人達成までの歩み～創造的復興に向けて～

■ ステージイベント

地元の子どもたちによるダンス、和太鼓の披露

今後の復興に向け、能登の躍動感を創出

300万人達成記念セレモニー(10/27)



日本航空高等学校石川
ウィングダンスカンパニー



輪島高洲太鼓

のと里山空港300万人達成ありがとう！キャンペーン

- ・能登・羽田便利用者を対象に、**抽選で能登の冬の食が当たる記念キャンペーン**を実施
- ・能登の特産品の消費喚起を図り、**能登の復興を応援するとともに、冬季の誘客を促進**

期 間

12月1日(月)～令和8年2月28日(土)搭乗分

対象者

能登・羽田便利用者（ANAマイレージ会員）

特 典

能登の特産品セット（能登の海産物、地酒など）
を抽選で**300名にプレゼント**



明日(11月21日)より参加エントリー開始!!

応募方法

キャンペーン特設サイトで、希望商品を選択・エントリーの上、能登・羽田便を利用



能登海の幸セット
100名



能登牛カレーセット
100名



櫻田酒造と車多酒造が共同醸造した日本酒
能登大慶×天狗舞
100名

キャンペーンサイトはこちら

